

学際教育の実質化に向けての取組

河野, 昭彦

<https://hdl.handle.net/2324/19900>

出版情報 : 2011-06-30. 九州大学高等教育機構教育改革企画支援室
バージョン :
権利関係 :

取組名称：学際教育の実質化に向けての取組：柔軟な学際教育プログラムの立案と実施のための学際教育コーディネータの創設と試行

部局名：人間環境学府

○取組概要

人間と環境に関する文理両研究領域のそれぞれに属する多様な教員構成、学生の履修上の柔軟性は、学際研究教育を推し進める上での本学府の大きな強みである。学際研究教育についての本学府のこれまでの取組では、3つの基幹専攻と2つの学際専攻という専攻配置を通じて学際性の実現を目指し、顕著な成果をあげてきた。しかし本学府の上記の強みを本当に生かし切れているかについては、専攻を超えての教員や学生間の研究・教育上の連携が限定的であるなど、さらなる改善の余地がある。

その時々、社会的関心に応じた専攻を超えた柔軟な学際教育への取り組みは、専攻の配置と教員構成といった組織上の配慮のみでは不十分で、また個々の研究者の間での自然発生的な協働をただ待っているだけでは容易には実現しない。異なる専門分野の研究・教育者の実りある協力関係を促す触媒が必要である。

こうした認識にたつて、本取り組みでは、各専攻から選ばれた若手教員による「学際研究・教育コーディネータ」を組織し、その活動を触媒として、異なる専攻に属する研究者どうしの研究・教育面での連携を活性化しようと試みた。また人環学際企画室を設けて、コーディネータ活動を補佐し、コーディネータ活動がより大きな効果を引き出せるサポート体制を整えた。

○コーディネータの三つの活動領域

(1) 調査・情報収集

内外の研究・教育機関における学際的取り組みについての調査

初年度においては、北大、京大、奈良女子大などの試みについて調査を行うとともに他大学の研究者を招いての研究会を開催した。次年度にはそれらと平行して合衆国における学際教育学会の活動や、テキサス大学アーリントン校における学際教育についての調査をおこなった。

学際教育の出口について

JICAの関係者を招いての講演会に加え、トヨタ財団等の助成団体やその他の民間研究機関のプログラム担当者らとのインタビューを行い、学際的な人材の社会的ニーズの把握に努めた。

各年度において、学府所属教員を対象に、その研究関心等に関するアンケートを実施し、またその結果に基づいて、個々の教員を対象に個別のインタビューを実施し、それらの結果を教員に還元し、相互の研究についての知識の共有を図った。



多分野連携プログラム・研究会風景



多分野連携プログラム・見学会風景

(2) 学際研究・教育の活性化に向けての取り組み

教員に対するアンケートと個別インタビューの結果に基づいて、構成教員の共同研究・教育取り組みチームを組織し、学際研究と教育を連携させることを狙った「多分野連携プログラム」を立案した(別項の説明を参照のこと)。また既存の「講義・人間環境学」「人間環境学コロキウム」の見直しと更なる活性化に向けての検討と取り組みも行われた。

(3) 教員相互の研究関心の共有、交流を図る試み

人間環境学学際サロンの設置

マンスリー学際サロンにおける毎月の教員による自分の研究紹介

学際コネクトミーティング

○成果

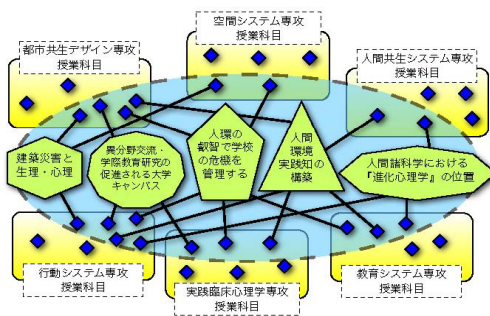
(1) 5つの多分野連携プログラムを立案し、試行した。

(2) コーディネータの活動を「学際白書2009」の刊行、「人環シンポジウム2011:学際的展開とコーディネータの取組」(2011年3月)の実施を通じて、広く公開した。

多分野連携プログラムとは

多分野連携プログラムとは、専攻を超えた数名の教員のチームを組織し、共同調査や研究会を実施し、それぞれの学生をこうした学際的共同研究活動に触れさせることによって、学際研究と教育を連携させようという試みであり、次の特徴をもつ。

- ・複数の異なる専攻・分野の授業や演習、学生指導を、共通のテーマやトピックによって連携させる。
- ・各取り組みは1~複数年で完結し、それに応じて毎年度、新たな取り組みを発足させる。
- ・学際コーディネータが、教員の問題関心を集約し、個々の教員との打ち合わせを通じて、プログラムを企画する。
- ・それぞれのプログラムでは、学期中に複数回、共同研究会、合同調査等を実施し、異なる専攻・分野に属する学生や教員相互の、共通のテーマに対する異なる専門分野の観点からの意見交換、共通理解の深化を図る。
- ・取り組みの結果を、シンポジウム、報告書などの形で公開する。



多分野連携プログラム概念図



人環シンポジウム2011